

打倒教科書。

班員 長瀬凌汰
福田奏音

久藤 佑香

指導者 津嶋大樹先生



研究の動機と目的

班員が日常的に小説を読んで漢字に触れていたおかげで、模試で偶然小説で見た漢字が出て、解答できた経験があった。よって、日常から漢字への接触回数が多ければ漢字の基礎力向上につながると考えたから。

現状分析

共通テストに出題される漢字問題は原則として常用漢字2136字の範囲内で、その音訓表に記載されているものとなっている。

仮説

小説は、勉強を目的として作られた教科書よりも漢字の使用率が多く、漢字の基礎力向上につながるのではないかと。

研究方法

- ①小説または教科書の本文を決定する
- ②①の本文をAIテキストマイニングと常用漢字チェッカーを使って全体の文字数と使われている常用漢字の数を調べる
- ③全体の文字数から常用漢字が使われている割合を調べる

必要な道具

・本(小説) ・教科書(国語) ・パソコン

参考文献

<https://textmining.userlocal.jp/><https://joyokanji.info/checker.html>https://www.aozora.gr.jp/cards/000119/files/624_14544.htm「李陵・山月記」新潮文庫、新潮社
1969(昭和44)年9月20日発行https://www.aozora.gr.jp/cards/000182/files/3216_16432.html

「西田幾多郎哲学論集3[#「3」はローマ数字3、1-13-23」 自覚について」

岩波文庫、岩波書店

1989(平成元年)年12月18日第1刷発行

「水の東西」山崎正和 1977 現代の国語(東京書籍)

「消費されるスポーツ」多木浩二 1995 現代の国語(東京書籍)

「『である』ことと『する』こと」丸山真男 1961 現代の国語(東京書籍)

「ミロのヴィーナス」清岡卓行 1990 現代の国語(東京書籍)

「山椒魚」井伏鱒二 1929年 「光の窓」小池昌代

「檸檬」梶井基次郎 1925年 「舞姫」森鷗外 1890年

「こころ」夏目漱石 1914年 文学国語(東京書籍)

結果

		文字数	常用漢字数	割合
評論	教科書	17279	4499	26%
	書籍	18854	6539	34%
物語	教科書	22272	4420	19%
	書籍	13815	2971	22%

結論

仮説通りの結果となり、教科書と書籍の常用漢字数の割合は多少小説の方が高くなった。

また、私たちが日頃から見かけるような漢字でも常用漢字ではないものが多く存在した。

考察

共通テストの問題は教科書の範囲からしか出題されないが漢字問題に関しては教科書に出てくる漢字だけでは熟語なども含めてマークしきれないと思われる。

共通テストに向けて漢字基礎力向上を目指した研究だったが、2024年の共通テストでは漢字問題の傾向が大きく変わり、研究の意味がかなり薄くなってしまった。

今後の展望

本や教科書を読むことでどれだけ文章の読解力が増すのか研究したい。

謝辞

担当の津嶋先生、アドバイザーの上ノ原様、ご指導して下さった先生方へ深く感謝を申し上げます。